

第3章 再整備方針

1 再整備のテーマと方針

第2章までで確認したとおり、広場と公園は厚別区におけるにぎわい創出や自然を感じる貴重な空間として重要な役割を担っていることが分かりますが、各設備等の老朽化の進行や秋・冬の利用率の低さなど、種々の課題を抱えています。

また、周辺は利便性の高い公共交通機関や多様な機能が集積されており、さらに市営住宅跡地を中心に周辺開発の活性化が予想されるなど、まちづくりにとって大きな可能性を秘めています。

そのため、引き続き広場における厚別区民まつり等を中心とした多くのにぎわいを支え、また更なる利活用を目指すこと、さらに、駅前の貴重なゆとり空間として日常的にも利用しやすいものとなるよう、利便性と安全性の確保を図ることができるよう再整備を進めます。

加えて、周辺開発の活性化等を中心としたまちづくりの大きな契機を逃すことなく、将来のにぎわい創出に寄与することを目指し、新さっぽろ駅周辺の回遊性向上やにぎわいの連続性に最大限寄与すること、またそのにぎわいを享受して、広場・公園自体がより魅力的な空間となることができるよう、再整備を進めます。

以上のことを踏まえ、再整備内容の検討にあたっては、以下のようなテーマ・方針を設定します。

【再整備のテーマ】

にぎわいの創出

ゆとりと
やすらぎの確保

安心・安全
の提供

空間の有効活用と
まち全体への寄与

情報発信と
魅力の強化

【再整備方針】

- 子育て世代や若年層が愛着を持てる空間
- 多世代が訪れ、多くの交流が生まれる空間
- 1年を通じて利用される空間
- 多様なイベントが行われ、多くの人々が集まれる空間
- 日常的ににぎわいがあり、活力を感じられる空間
- 駅周辺で憩い、休憩できる空間
- まちなかに居ながら適度な自然が感じられる空間
- お昼休憩など日常的な利用が快適にできる空間
- 子どもたちが楽しく遊べる・親子が安心して遊べる空間
- 明るくて見通しが良く、誰もが安全に利用できる空間
- 広場・公園の一体的利用・効果的な管理・運営の可能性を広げる空間
- まち全体の回遊性向上に寄与し、周辺施設からのにぎわいを共有できる空間
- いつ何が行われているか、誰もが情報に触れることができる空間

2 各エリアに求められる役割（ゾーニング）

再整備内容を検討するにあたり、広場・公園を一体的に大きな空間と捉えた上で、既存の役割や現状の課題、今後の周辺環境の変化等を踏まえて、どのエリアがどのような役割を担うべきなのか、ゾーニングにより明確化します。

○キラ☆キラ広場周辺 ⇒ **子どもが安心して遊べるにぎわいと休息のエリア**

現在でも、夏を中心に多くの子どもたちでにぎわい、活力を感じられる空間となっており、商業施設側に最も近く、駅前空間における元気で心温まる印象を与える貴重な空間となっています。

引き続き、小さな子どもたちでにぎわう空間を大切にするとともに、その役割・印象を強め、子育て世代を中心に愛される空間づくりを目指します。



○ふれあい広場あつべつ ⇒ **にぎわいを生み出し魅力を発信するエリア**

現在も多様なイベントが行われており、厚別区を代表する貴重なにぎわい創出空間です。

引き続き、区全体の魅力や活力を高め、発信できる空間を目指すとともに、多様な世代が活躍・交流でき、また四季折々で一年中にぎわいのあふれる魅力的な空間づくりを目指します。



○公園南側 ⇒ 多世代のにぎわいが生まれるやすらぎエリア

樹木の多い空間となっていますが、その成長とともに薄暗くなり、視認性や安全性の確保が求められます。

この課題を解消するために、衰弱木の伐採や密集した樹木の間伐とともに、ゆとりあるスペースを創出するための伐採と芝生整備を行うことによって、多様な世代がやすらぎを感じられる心地よいみどりの空間づくりを目指します。

また、広場と隣接するエリアであることから、日常の利用だけでなくイベント時にも対応できる利便性の高い空間づくりを目指します。



○公園中央部 ⇒ ゾーンをつなげる核となるエリア

現在は、青少年科学館前のエントランス広場として、植樹帯や各種モニュメント等が設置されています。

今後は、周辺施設とのつながりやにぎわいの連続性に重要な核になるエリアとして、人々が行き交い、にぎわいが生まれる空間であるとともに、立ち止まりつろぐこともできる空間づくりを目指します。

また、各エリアの中心部でもあることから、日常の利用だけでなくイベント時にも対応できる利便性の高い空間づくりを目指します。



○広場・公園への入口部(動線部)

周辺の開発を意識し、より一層まち全体のつながりに寄与し、また、そのにぎわいを享受することで、日常的な利用及びイベント等の利用ニーズが増えるような快適な動線づくりを目指します。

各エリアに求められる役割(ゾーニング図)

■子どもが安心して遊べるにぎわいと休息のエリア

- 小さな子どもたちの活力を感じられる空間
- 元気で心温まる、子育て世代に愛着を持たれる空間

■ゾーンをつなげる核となるエリア

- 人々が行き交いにぎわいを生み出す空間
- 立ち止まりつくり上げる空間
- イベントにも対応できる利便性の高い空間

■にぎわいを生み出し魅力を発信するエリア

- さまざまなイベントを行い、厚別区の魅力や活力を高めることができる空間
- 多様な世代が活躍し、魅力を感じる空間
- 四季折々に年間を通してにぎわいを創出できる空間

■多世代のにぎわいが生まれるやすらぎエリア

- 多様な世代がやすらげる心地よいみどりの空間
- イベントにも対応できる利便性の高い空間

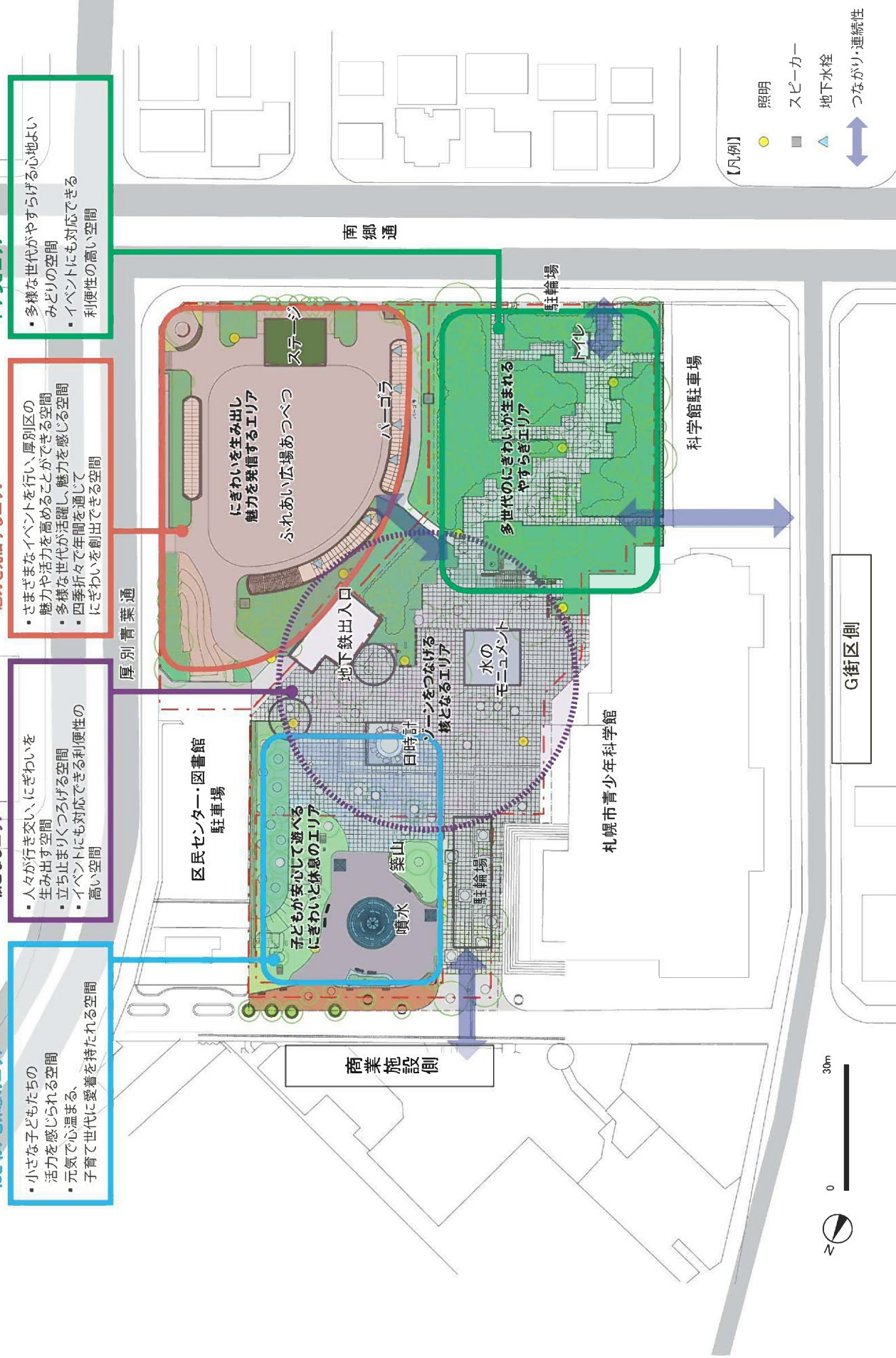


図 3-1 各エリアに求められる役割(ゾーニング図)

3 再整備内容について

各ゾーンの再整備内容

ゾーニングに基づき、各エリアにおける具体的な整備内容を検討します。

子どもが安心して遊べるにぎわいと休息のエリア

より多くの子どもたちが楽しみ、また親が安心して見守ることができる空間として、既存の噴水周辺のキラ☆キラ広場を拡大し、以下のような整備を行います。

- 芝生や子ども(幼児)用遊具の設置
- ベンチ等の休憩施設の増設



図 3-2 噴水周辺の再整備イメージ

にぎわいを生み出し魅力を発信するエリア

引き続き多様なイベントでにぎわいを創出することができるよう、各種設備の保全を行います。また、年間を通じたにぎわい創出を目指すとともに、音楽系や演劇系の利活用ニーズへの対応、若者を中心とした多世代が楽しめるイベントに対応できる空間として、以下のような整備を行います。

- パーゴラの修繕
 - 屋根の張り替え
 - 天井照明設備の更新 等
- ステージ・テントの修繕
 - 常設屋根の設置
 - 天井照明・音響設備の更新
 - ステージ床・側面の修繕 等
- ステージ地下の修繕
 - レイアウト変更
 - 空調設備・排水設備の更新 等
- 音響・照明柱の更新
- 舗装面の修繕と排水性の向上
- イベント等のお知らせ看板等の設置
- 給排水設備の更新



図 3-3 広場の再整備イメージ

多世代のにぎわいが生まれるやすらぎエリア

現在抱える視認性や安全性の確保といった課題を解消するとともに、自然やゆとり空間によって多様な世代にやすらぎを与えることができる空間として、以下のような整備を行います。

- 樹木の整理(間伐、伐採、移植等)
- 芝生広場の整備
- トイレ周辺の視認性と安全性の確保
- ベンチ等の休憩施設の整備



図 3-4 公園南側の再整備イメージ

ゾーンをつなげる核となるエリア

公共交通機関・商業施設・G街区・南郷通側をつなぎ、人々が行き交う動線の中心として、また、滞留できる空間として、以下のような整備を行います。

- 案内看板・サインの設置
- ベンチ等の休憩施設の整備
- モニュメント・日時計の撤去と植樹帯の移設・撤去等
- 各エリア間のつながりや歩行者動線の確保



図 3-5 公園中央部の再整備イメージ

○一体的な利活用の促進

現在、広場と公園の間は、樹木や段差により視認性の遮断や物理的な隔たりがあります。そのため、広場がイベント等を行える特別な空間として独立している一方で、認知度の低さ、また公園と連携した一体的な利活用等に支障をきたしている状況です。

そこで、特に【にぎわいを生み出し魅力を発信するエリア】と【多世代のにぎわいが生まれるやすらぎエリア】の間、及び地下鉄出入口付近において、樹木の間伐による視認性の向上や一部高低差を活かした空間整備を行うことにより、各エリアの様々な場面での幅広い適応力を高め、効果的な活用ができる空間の整備を目指します。

○歩行者動線の整備

広場・公園周辺は、商業機能や公共交通機関が集積されており、またG街区の開発により教育機関が集積されるなど、今後、動線としての利用も含め多くの人々が足を運ぶことが想定されます。

そこで、商業施設側及びG街区側との連続性、各エリアの連続性を確保し、人通りによるにぎわいの演出だけでなく、周辺施設からの積極的な利用につなげることができるよう、快適な歩行空間を整備します。

なお、現在、商業施設側から公園に入る動線上に、公共交通機関等を利用する人たちの仮設駐輪場が設置されているため、地区全体の回遊性の阻害及びキラ☆キラ広場への人・自転車等の通り抜けが課題となっていることから、同駐輪場の移設を検討します。

再整備後の利活用について（周辺事業者との連携）

再整備内容の検討にあたっては、現状の広場・公園の利活用実態から見る季節ごとの利用率等の課題、また周辺施設の利用状況などから見る潜在的な利用ニーズなどを踏まえ、どのような設備・空間が最も効果的に活用され、その後の利用促進策に繋げることができるのかといったイメージも、重要な視点の一つとして捉えています。

特に、G・I街区を中心とした今後の新さつぽろ駅周辺の開発は、当地区の交流人口、とりわけ学生等の若年層を大幅に増加させることが見込まれ、広場・公園を取り巻く環境が大きく変化し、その利活用の可能性を広げることが考えられます。

そのため、「ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会」における検討では、現在想定されているG・I街区の開発内容や今後の交流人口の増加見込み、またそれに伴う広場・公園の利活用の可能性等について、G・I街区開発事業者とも積極的な意見交換を行いながら検討を進めてきました。

今後も、再整備後の広場・公園の一体的な利活用を促進し、より一層のにぎわい推進を図ることができるよう、新たな利活用ニーズの発掘や地域との連携、より効果的・効率的な管理運営方法等について、引き続きG・I街区開発事業者を含む周辺事業者及び地域との意見交換を積極的に行いながら、再整備後の利活用に関する検討を進めていきます。

再整備計画図

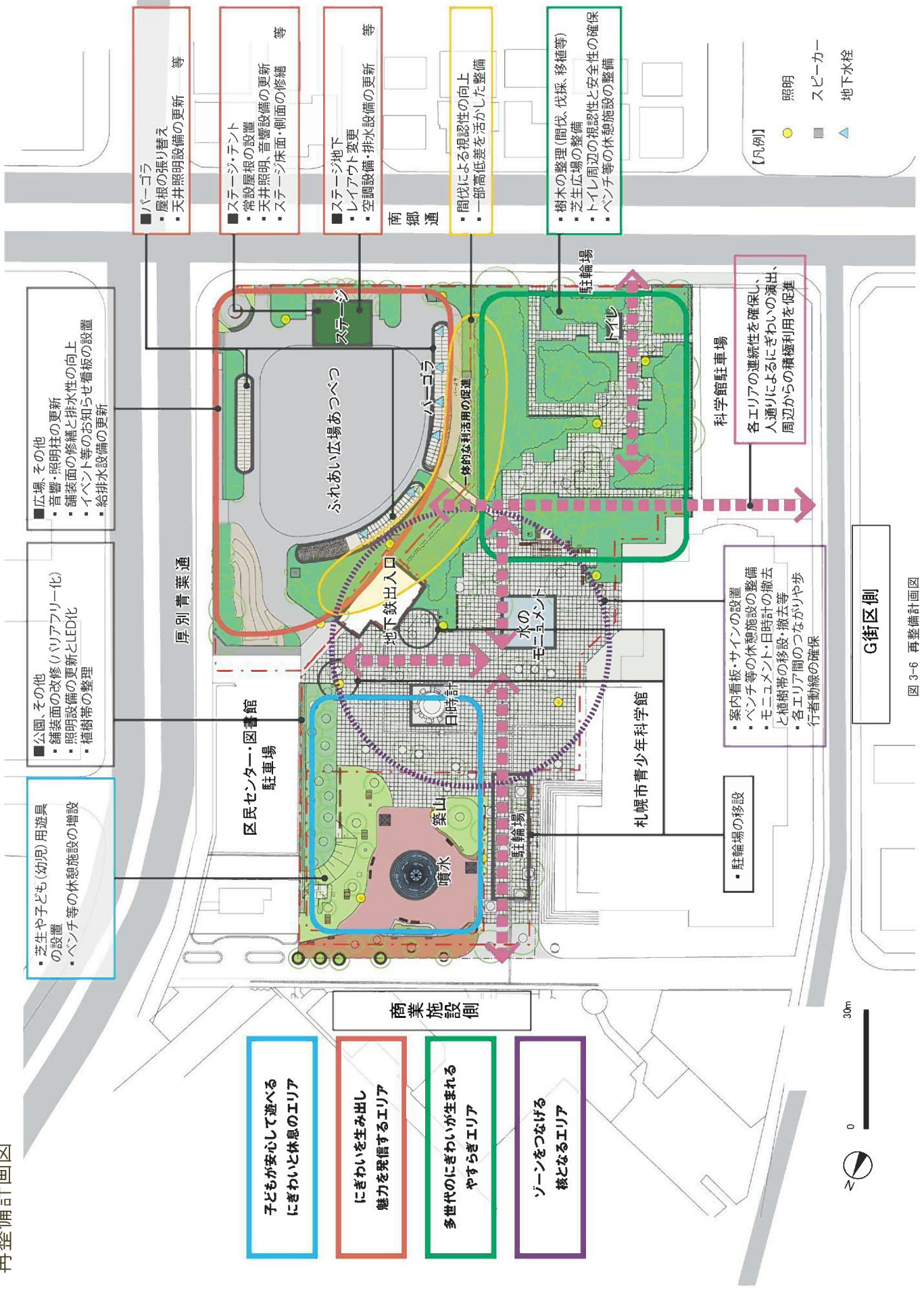


図 3-6 再整備計画図

再整備イメージ図



図 3-7 再整備イメージ図